

産から学へ

宇都宮大学地域共生研究開発センター

Vol.1

アイ電子インタビュー

日 時：平成21年3月31日(火) 15:45～18:15

場 所：アイ電子工業・本社

インタビュー対象者：高橋徳経社長

インタビューアー：山下CD、荏司

会社概要

社名	株式会社アイ電子工業
創業年	昭和55年10月21日 昭和63年12月 株式会社化資本金 1 億円
本 社	27 億円(2008年度実績)
工 場	〒324-0047 大田原市美原3-3323-12
代 表 者	黒磯事業所、那須事業所、黒羽工場、野崎工場
従業員数	代表取締役 高橋 徳経
主な取引先	社員121名(男79名, 女 42名)。契約社員328名 (2009.4現在)
関 連 会 社	富士通、富士通ワイヤレスシステムズ、アンテン、レーザーテクノ、国際技術開発、平田機工、エフティエム・エンジニアリング、ミットヨ、データテック、AMMANN Lasertechnik(スイス)
U R L	玄人軍団、もったいない、マツキ、DAIKU-JV
	http://www.ailove.co.jp

最近の景気はいかがですか？

弊社は携帯電話の受託生産が主体ですが、IT関係の設計、組立、実装や検査装置等の事業も展開しています。確かにいい状況とはいえませんが、中国の景気が回復して来つつあります。それは、中国政府が補助金を出して内陸部の農民にパソコンや携帯電話、テレビ等を購入させているからです。そのために、一昨年の9月から落ち込んでいた、それら機器に用いる半導体の関連市場が、動き始まり、半導体検査装置類の引き合いが台湾経由で来ています。市場が動きつつあります。

現在、注力されているビジネスを教えてください。

環境分野の事業に注力しています。

例えば、竹林や山林の間伐材の利用です。竹林の間伐材をチップにして膨潤させてマルチング材や堆肥に生まれ変わらせています。堆肥として既にトマトやサクラソバなどの野菜の栽培用に、九州から取り寄せている農家もあります。大手食品企業からの問い合わせもあり、地元としては今がチャンスです。また、オガ粉等からペレット製造しています。

しかし、最近では、間伐作業の費用がかかるため、原料となる間伐材も山から降りてこなくなってきました。このまま間伐作業が止まり、森林が放置されると、山林が荒廃してしまいますので、コストがかからない間伐材の搬出等、林業の問題を解決しなければならぬと考えて開発したのが車載用のペレット造粒システムです。量は8月以降ですが、全国から注文が来ています。若者にこの山林の問題に目をむけて欲しいと思っています。



木材を小割に



オガ粉に



造粒(ペレットに固める)



ペレット選別



袋詰め

同様に目をむけて欲しいのが食料問題です。そのために「キッチン菜房『小菜摘ちゃん』」を開発しました。ベビーリーフやスプラウトが2週間で収穫できるミニ植物工場です。出版社に広告を出しましたが、反響が大きかったですね。これは、種まきから収穫まで植物の生長を楽しめますので、幼稚園で展開しようと思っています。子どもの食育にはいいと思います。『小菜摘ちゃん』については10名のモニターを募集し、レポートをインターネットを通じて出してもらおうことになっています。農業への関心を高めてもらいたいと思っています。



小菜摘ちゃん外観



小菜摘ちゃん内部

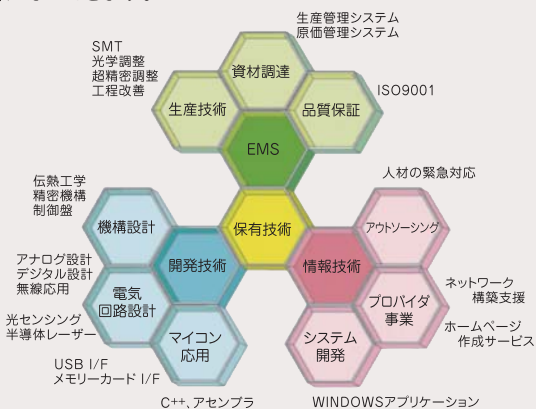
例えば、オゾン水生成器ですが、県内企業が水道管の清掃にオゾン水を使っていましたが、オゾン発生器が大きくて、もっと小さくすればいいのってというのがスタートです。オゾン水は、欧州では眼科の網膜剥離の手術の消毒に使われたり、痔の治療や歯科の治療にも応用されています。そこから発展して、野菜の殺菌や自然薯の切り口のオゾン水消毒へと展開しています。このようにオゾン水の「殺菌」というキーワードで様々な応用例への展開を行なっています。



アイ電子工業さんという様々な分野に 参入されているというイメージがありますが、 製品開発のポリシーについて教えてください。

私どもは元来、制御とセンシングがコア技術です。これは、情報を取って、コントロールと言うことから、電子分野の中核ですね。これは、どの分野でも必要となる技術ですから環境でも農業でも問題なく活かせるのです。コア技術を他分野で活用することで、さらに私たちのコア技術を強めていこうというのが私どもの研究開発のポリシーです。一つの技術を一つの製品で終わらせない。これも「もったいない」精神ですね。

ただ、問題になるのは、何をセンシングして、何をコントロールするかということです。そういう点で、その分野に携わる研究者や企業、農家の方から情報をいただくこと、つまり連携が必要になってきます。



従業員の方の育成については どのようにされているのですか？

従業員には、興味をもっていることを提案させています。今、弊社が行なっている事業とは違っていてもです。提案したものをやめてしまうのは「もったいない」ですよね。

ある社員が「本を出したい」ということを言い出したときは、考えを聞いて、私どもの事業とは関連は無いのですが、出版を許しました。

新しい提案は失敗も多いです。ただ、失敗を積み重ねると面白いことが起きます。それは、商品化のサイクルを失敗の数だけ繰り返すのです。ですから、失敗を繰り返すことで、いつの間にか一人で商品開発が出来るようになるんです。

学生には何かアドバイスはありますか？

様々なことに興味を持って欲しいです。

そして、海外に出てみて欲しいです。例えば、東南アジア、ベトナムなどで実習というのもいいですね。

そこで生活している人々の生きることへのエネルギーのすさまじさを感じて欲しいと思っています。そうすれば、如何に自分たちが恵まれている、というよりは、現状を知らないために、取り残されているかと言うことに気がつくと思います。

海外に出ることで、世界の様々な判断基準や価値基準を知った上で、身の回りの環境が変わったときに柔軟に対応できる人間になってもらいたいと思いますし、そうすれば、ものごとを多面的に見ることができるようになります。

人は新しい行動をすれば80%は失敗するのです。ただ、そこでどう軌道修正するかを体験するのがとても重要だと思います。そういう問題解決をできたときの感動を知って欲しいのです。もし、インターンシップで弊社に来ていただく機会があれば、是非、ごかせていただき、その感動を知ってもらおうと思います(笑)

私は、もともと大企業に入社するのはいやでした。小さい企業であれば、いろんなことができると思ったからです。実際、品質管理、営業、クレーム処理、社内報作り、などいろんなことをしました。会社を移りながら、様々な社長さんにお仕えし、また、おつきあいいただき、いろんな経験を積みました。それが財産ですね。

このような考えがあるので、弊社は新卒の方をほとんど採用していません。中途採用で人材を集めています。それは、転職を経験して、応募してきた人は様々な経験をして、やりたいことを見極めてくるので、仕事ができることが多いです。転職が人を大きくしてくれると考えています。

社長の夢はなんでしょう？

我が国の優れた技術の伝承です。ただし、我が国の少子高齢化が進みますので、どこに伝承するかということになります。私は5年くらい、どこの国がいいか見て回りましたが、ベトナムはその候補の一つですね。もちろん、まだ教育レベルが高いわけではないです。しかし、「やってやろう」という気持ちとプライドを彼らは持っていると思うからです。

皆さん、ベトナムは遠いとおっしゃるかもしれませんが、移動時間で換算すると江戸時代の下野の国内の移動範囲は現在で言えば日本から東南アジアまでの領域になるのではないのでしょうか。そういうスケールで見ないといけないと思います。

宇都宮大学 地域共生研究開発センター 産業交流振興会
宇都宮大学 地域共生研究開発センター 広報室

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7丁目1番2号
E-mail: chiiki@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

TEL 028-689-9316 / FAX 028-689-6320
URL: <http://www.sangaku.utsunomiya-u.ac.jp/chiiki>